

『源氏物語』 「須磨の秋」 テスト問題

【三】 本文について、設問に答えよ。

月のいとはなやかにさし出でたるに、①今宵は十五夜なりけりと思し出でて、殿上の②御遊び恋しく、ところどころながめ給ふらむかしと、思ひやり給ふにつけても、月の顔へ A へまもられ給ふ。「二千里の外の故人の心」と誦し給へる、例の涙もとどめられず。入道の宮の「霧や隔つる」とのたまはせしほど、いはむ方なく恋しく、折々のこと思ひ出で給ふに、よよと泣かれ給ふ。「夜更け侍りぬ。」と聞こゆれど、なほ入り給はず。

X見るほどぞしばし慰むめぐりあはむ月の都は遙かなれども

その夜、上のいとなつかしう昔物語へ B へし給ひし御さまの、院に似奉り給へりしも、恋しく思ひ出で聞こえ給ひて、「恩賜の御衣は今此に在り」と誦じつつ入り給ひぬ。御衣はまことに身放たず、傍らに置き給へり。

Y憂しとのみひとへにもものは思ほえてひだりみぎにもぬるる袖かな

問一 次の語句の読みを、ひらがな（現代仮名遣い）で答えよ。

①殿上 ②御衣

問二 傍線部①とあるが、「十五夜」の内容として、最も適切なものは次のうちどれか。

- ア 七月十五日の初秋の名月
- イ 八月十五日の中秋の名月
- ウ 九月十五日の晩秋の名月
- エ 十月十五日の初冬の名月

問三 傍線部②とは、具体的にどのような遊びか。

問四 《A》《B》に入るべき副助詞として、最も適切なものをそれぞれ選択肢より選び、記号で答えよ。

- ア ばかり
- イ のみ
- ウ さへ
- エ だに
- オ など

問五 Xの歌について、掛詞を挙げ、どのような意味が掛けられているか答えよ。

問六 Yの歌について、「ひだりみぎにもぬるる袖かな」とは、どういうことか。簡潔に答えよ。

問七 出典と作者を漢字で答えよ。